



導入ポイント 導入効果

- 1 ICカードはもちろん、生体認証にも対応する製品を選択
- 2 スタンドアローン版とActive Directory版(AD版)が用意されている
- 3 導入負荷がかからず簡単にセッティングすることができる

■口座開設時にマイナンバーが必要

— SmartSESAME PCログオンの導入に至った背景を教えてください。

口座開設時、個人情報であるマイナンバーの取得を金融機関に課せられることになったのが大きな理由です。制度開始の2016年1月から顧客のマイナンバーを取得することになるのですが、ご存知の通りマイナンバーは多くの個人情報がひとつの番号に紐付けされています。当社は金融機関としてセキュリティに対して高い意識を有しているとはいえ、万が一にも情報漏えいは許されないマイナンバーには細心の注意が必要となります。

当社は個人情報保護委員会のサイトに掲載されているガイドラインを参考に、マイナンバーの管理に適したセキュリティを議論しました。そこで出た結論が①「既存ネットワークと分離した独立した環境」と②「二要素認証の導入」です。

①は既存のネットワークやインターネットを通じて、

外部にマイナンバーが流失しないための措置です。マイナンバーだけを管理する独立した環境を構築すれば、流失のリスクは低減します。

②は第三者がPCを操作できないようにする措置です。あらかじめ登録された担当者のみが二要素認証によってログインすることができます。これにより、第三者による情報漏えいを防止します。

— 二要素認証製品に求めた要件を教えてください。

以下の4つを要件に定め、二要素認証製品をリサーチしました。

＜生体認証とパスワード＞

二要素認証といえば一般的に「ICカード認証+HD・パスワード」もしくは「生体認証+HD・パスワード」が選択肢になるかと思います。当社では、社内への入退出にICカードを利用しているため、別途ICカードを用意すると管理が煩雑になってしまいます。ICカード紛失の可能性も避けたいところです。そういう意味では生体認

証ありきで、当時主流の指紋認証を要件としました。

＜PC単独で使える＞

マイナンバー専用PC数台への二要素認証導入でしたので、ネットワーク対応は不要。マイナンバー専用PCそれぞれに二要素認証を組み込める製品を求めました。

＜救済措置機能の搭載＞

何らかのトラブル、アクシデントで認証できなかった場合、「何も対応策がない」では業務がストップしてしまいます。当社は24時間営業ですから、そういった事態が深夜に発生すると業務はもちろん、人的にも大きな負担を強いられます。救済措置として別のログイン方法が提供されていれば安心でした。

＜コスト＞

さまざまな製品を比較・検討し、当社予算に見合う適切な製品を選定することが重要でした。

すべての要件に SmartSESAME PCログオンが合致

— 比較・検証した製品の選定ポイントは？

リサーチしたところ、2015年当時は指紋とID・パスワードによる二要素認証製品が少なかったと記憶しています。PCごとに組み込む二要素認証製品となると、さらに限定されてきます。当社が求めた指紋とパスワード、PC単独、救済措置機能に合致するのは、シーイーシーのSmartSESAME PCログオンだけでした。コスト面においてもSmartSESAME PCログオンは、PC台数のみをライセンスとしてカウント。ユーザー数はカウントしないため、安価で購入することができました。

オフィス移転を機に マイナンバー専用PCを増加

— 2017年にAD版を導入した理由は？

オフィスの移転、サービス拡充にともない、マイナンバー担当および専用PCを増やしたことが理由です。PCの台数が少ない場合は、スタンドアローン版で1台ごとにアカウントを登録することは手間ではありませんでしたが、台数が倍以上となると対応しきれません。

そもそも当社は業務ポジションを固定しないシフト制のため、同じPCを複数人で共有することになります。ですから、マイナンバー専用PCの場合もソフトウェアのインストールだけでなく、それぞれに利用する人全員の生体登録を行う必要があります。

そこで、マイナンバー専用PCだけのネットワークを構築し、あらためてSmartSESAME PCログオンのAD版を導入することしました。AD版ならサーバーのみにインストール&生体登録するだけで、すべての専用PCに対し適切な二要素認証の設定を行うことができます。

SmartSESAME PCログオンのスタンドアローン版で十分に満足していたので、今回の二要素認証の再構築を行うにあたって声をかけたのはシーイーシーのみです。もちろん、SmartSESAME PCログオンのAD版

の存在も承知していました。2017年11月にはAD版を組み込んで、新たなマイナンバー管理システムが稼働しています。

検知率の高い 指静脈認証デバイスを導入

— AD版だけでなく、指静脈認証デバイスを導入した理由は？

データセンターのセキュリティでは指静脈認証を導入しており、指静脈認証の検知率の高さを理解していました。実はスタンドアローン版を導入する際も、指静脈認証にしたかったのですが、当時は当社が求める機能やコストに見合う指静脈認証デバイスがありませんでした。

スタンドアローン版導入から2年が経過しており、市場も変化しているとシーイーシーからアナウンスがあり、今回はU4ST（モフィリア）という指静脈認証デバイスをご紹介いただきました。

— 指紋認証と指静脈認証の違いはありますか？

指紋認証の場合、水分、油分、汗、切り傷、乾燥肌、指紋の濃度などが検知に影響することがあり、頻繁ではありませんが認証できないことがありました。また、ちょっと角度が異なっただけでも検知が難しくなっていました。幸いにも救済措置がありましたので、業務ストップという状況は回避できていました。指静脈認証のU4STにしてからは、検知できないという話は耳にしません。

導入負荷がかからない

— SmartSESAME PCログオンに対する評価をお聞かせください。

とにかく導入が簡単です。シーイーシーにお手伝いいただいたのはトライアル版の試用時のみ。その後の導入は我々だけで行うことができました。情報システムに関わる人はもちろん、ある程度PCに慣れている人なら誰でもできるのではないのでしょうか。

— 最後にシーイーシーに対する今後の期待をお聞かせください。

当社がお願いしたいのは、OSのバージョンアップなどがあってもレスポンス良く対応いただけるサポートです。性能・機能向上も積極的にフィードバックしていただきたい。さらにクライアント系のセキュリティで何か良いプロダクトがあれば、さまざまな提案も期待しています。

こうしたお願いができるのも、親身になって相談にのっていただけるシーイーシーだからこそと思っています。今後とも手厚いサポートをお願いします。

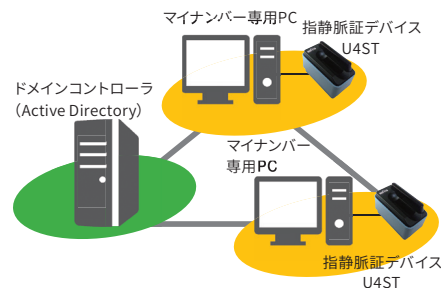
スタンドアローン版の導入（2015年9月）

マイナンバー専用PC内に利用者情報を登録



Active Directory版の導入（2017年11月）

Active Directory内で利用者情報を集中管理



ICカードや生体認証による二要素認証に対応したセキュリティソリューション SmartSESAME PCログオンを依頼。2015年9月にはスタンドアローン版と指紋認証デバイスを、2017年11月にはActive Directory版（AD版）と指静脈認証デバイスを導入した。